

「アミノバイタル」カップ優勝

サッカー一部

4月から5月にかけて行われたアミノバイタルカップ2017の埼玉県大会は、共栄大学、独協大学、平成国際大学に勝って優勝を決めた。さらに6月3日あったフレオオフで横浜市立大学を4-1で一蹴。7月1日から始まった関東大会(兼総理大臣杯全日本大学サッカー選手権)で優勝し、5年連続21回目の駒を進めた。

3連覇中の東1部リーグは5月14日の初戦、芝浦工業大学に3-0と勝利して幸先の良い滑り出しを見せたが、同日の共栄大学戦で2-0と分け、同日の文政大学戦でも1-3と敗れた。6月11日の4節の独協大学戦でも前半に2点をリードしながら後半に追いつかれ引き分け。同日の平成国際大学戦は1-2と惜敗、なかなか波に乗れない状態が続いたが、同日の埼玉工業大学戦は4-0と大勝。勝敗を五分に戻すとともに得失点差もプラス転じた。



▲アミノバイタルのフレオオフ戦の先発メンバー

関東大会へ駒を進める 5年連続21回目

猿山誠監督は「5から6月はハードスケジュールの中で戦っていたため、体力的にヒールを迎える時期だ。上位と比べると勝点差が開いていないので、後期に巻き返せる順位で終わりたい」と語っていた。主将の田中大輔(現代政策4)も「まだまだ上位を狙える。一つひとつ上を目指して巻き返しを頑張りたい」と語った。

【記者石橋】

上田「高い意識を持って上を目指す」

女子駅伝部

昨年優勝の関東インカレ15000の決勝で、スパイクが脱げたというアクシデントに見舞われた上田未奈が、2週間後の個人選手権大会の15000で優勝。不甲斐ない」と語った関カレの悔しさを晴らした。上田にはやはり、表彰台の真ん中が似合う。

日本選手権など大きな試合へ向けて調子と準備をしっかり整えられるようにしていきたい」と語っていた上田は



▲個人選手権の表彰台で笑顔の上田

見事、日本選手権で粘って2位となり表彰台を射止めた。上田はチームの核としてみんなを引っ張っていき、練習から高い意識を持って上を目指して取り組んでいきたい」と決意を語っている。



▶開の中力走る金子(右)と中倉

チーム全員で勝ち取った結果(主将・中倉)

全日本大学駅伝に3年ぶり出場へ

駅伝予選会

男子駅伝部

大学三大駅伝の一つである全日本大学駅伝対校選手権大会(11月5日)の予選会が6月18日、さいたま市の駒園運動公園陸上競技場で行われた。男子駅伝部は総合9位の3時間59分05秒34で3年ぶり6度目の本戦出場を決めた。各校8人から入った4組に分かれて1万キロ走り、合計タイムで競った。一回出走した8人は集団から大きく遅れることなく見方のレースに徹したことが、功を奏した。

最終組では関東インカレの個人種目で入賞した佐島公平と金子元気の3年生コンビが29分56秒でこの好記録をマーク、予選会通過の決定打となった。落選した10位の日本体育大学とはわずか12秒差、11位の創価大学とも13秒差という僅差。レース後、チームには笑顔が広がった。

報告会で主将の中倉優也(経営4)は「チーム全員で勝ち取った結果」と話したが、「ギリギリの通過。このままでは本戦では戦えない」と引き締めた。柳部静監督は「ギリギリだが価値のあるもの。それぞれやるべきことを考えてやってほしい。チームは強くなる」と今後を展望した。チームは夏合宿に向け準備を進める。秋以降のレースに期待の持てる結果となった。

【記者石橋】



▶カツプの選手

800^{メートル}高橋、ハーフマラソン金子 それぞれ4位健闘(関東インカレ) 上田 1500^{メートル}優勝(個人選手権)、日本選手権で2位

関東インカレ & 個人選手権



▶8000^{メートル}4位となった高橋(中倉)

陸上競技の関東インカレは、銀治先峻(経営4)が4000^{メートル}ハドルで優勝したほか、8000^{メートル}の高橋竜平(経営4)とハーフマラソンの金子元気(経営3)がそれぞれ4位となった。中倉公平(経営3)が5000^{メートル}で8位。4×1000^{メートル}リレーは7位、4×4000^{メートル}リレーは8位。女子は5000^{メートル}で上田未奈(経営3)が8位だった。関東インカレの15000^{メートル}でレース中にスパイクが脱げて連覇を果たした上田は、個人選手権の15000^{メートル}で優勝してリベンジを果たし、日本選手権でも表彰台に上がった。また高橋も個人選手権の8000^{メートル}で2位となり、表彰台に上がった。【高桑優美(写真)】



陸上競技部

▶ハーフマラソン4位健闘の金子(右)と中倉

高橋竜平 「悔いを残し たくさんなかった」

「最終学年でこの1年、悔いを残しなくなかった。頭振った」と、関東インカレを振り返った高橋竜平。表彰台に上がれなかった悔しさを、2位となった個人選手権で晴らした。関東インカレで負けた3人に勝つのが目標だった。1分49秒33は大会新の自己記録で城西大新記録。「もう少し粘っていたら優勝もあったかもしれないが、自己ベストが出せたので満足。秋の日本インカレでも表彰台に立るように頑張ると決意を語っている。

渡部佳朗 「もう一回上げ直す」

千葉佳彦監督の話「今年は部残留が厳しいと聞かれていたので、残留できて良かった。4年生が少なくなった。銀治は主将ということで、気持ちの入力方が違った。日本インカレ、団体もある。渡部が本調子になれば、銀治とのライバル争いが本当に面白くなると思う。」

「もう一回上げ直す」

渡部は、シニアジュニア陸上を優勝するなど活躍した渡部佳朗は、シーズン前半、足のケガで力を出せずまいだった。それでも4×4000^{メートル}では走った。8位入賞に貢献した。4000^{メートル}の城西大記録を銀治本に抜かれたことについては「来年の関東インカレで抜き返す勢いで練習したい」ときっぱり。「自分は秋の方が得意と思っているので、もう一回上げ直して練習も頑張りたい」と再起を誓っている。

「絶対に入賞する」 見事に目標を達成した金子

男子駅伝部



▶個人選手権5000^{メートル}で優勝を決めた上田(左)

ハーフマラソンには、金子元気、大石巧(経営3)に2年生の中原佑(経営)が出走した。3日終了時点で城西大学の得意分野。1部降格が現実味を帯びてきた最終日、学連連後、正月の箱根を走った金子が4位の好成績を収めた。

チームに貢献するために絶対に入賞すること。その目標を見事に達成した。前半から集団前方のレースを押し進め、ベテラン選手を確実に引っかき寄せ、ゴールした。順位、レース展開ともに収穫が多岐にわたる。夏合宿でチームの底上げと強化が

中島 「3000^{メートル}が過ぎから失速した」と悔しさ

中島公平は5000^{メートル}で2年連続の入賞を果たし、1部残留に貢献した。昨年は7位。今年は去年の順位とタイムを越えることを目標としていたが、予想以上のハイペースに対応が出来ず、3000^{メートル}過ぎから失速したと悔しさをにじませたが、「最低限を入り出たことは良かった」と話した。

またあの暑い夏がやってくる

経営学部助教 高橋 欣也



今年も暑い夏がやってくる。私はあの日、大宮公園フルで5000^{メートル}個人メドレーにエントリーしていた。招集場所は朝から異様な熱気に包まれていた。それもそのはず。その種目の優勝者には個人メドレー競技者にとつて特別賞と「丸笹賞」という特別賞とえられることになっていたのだ。予想どおり、ライバルも予選を通過していた。決勝戦でMと私は隣同士のコース。2人とも負けたら負けであった。スタート台に立つ。スタートが鳴る直前の瞬間、Mと私。Mと私。それ以外の選手7名が一斉にフルに飛び込む。100^{メートル}を泳ぎ終えた時点で、Mはトップ、私は最下位。その差は15秒。絶望的な差である。だが、Mは平泳ぎが苦手だ。私は得意な平泳ぎで100^{メートル}から150^{メートル}の間で、1人また1人と選手を追い抜き、Mに後半の差まで追いつく。ラストはローリングの勝負。意地と意地がぶつかり合い、私は最後のところでMを追い抜き、優勝と丸笹賞のトロフィーを手に入れた。レース後、Mからおめでとうと声を掛けられ、お互いの健闘をたたえた。その後、Mは種目を変えたため、あの時のような勝負をすることはなくなりましたが、今でもMとは友人として付き合いが続いている。

スノーの醍醐味は勝負に勝利することだけではない。切磋琢磨して互いに高見を目指せる存在に出会うことであろう。私は水泳を通して、生もとの友ができた。私は高校卒業とともに競技生活から引退したが、フルの水面に夏の日は反射する光景を見ると、関東大会や全国ジュニアオリンピックでの試合よりもあの日のMとの戦いを思い出す。またあの暑い夏がやってくる。

ラクロス部

創部3年目を迎えた男子ラクロス部。部員はマネジャーを含めて25人となり、初の関東学生ラクロスリーグ3部への出場が決まった。



【記者石橋】

ラクロス部の活動目的は「ラクロスの魅力をもっとたくさんの人に伝えることだ。部員のほとんどがラクロス初心者だった。部員の一人はラクロス部の門をたたいた理由を、高校までたっさんのスポーツをやってきたが、誰かに誘われて、というのが多かった。しかし、ラクロスは初めて自発的にやりたいと思った」と語る。

「ONKISS」ただ唯一の存在を今年のスローガンに掲げている。代表の菅井輔輔(現代政策3)は旋風を巻き起こすと期している。



薬は指定された飲み方で

指定される薬の飲み方で必ずあるのが、水で飲むこと。なぜでしょう。食べ物は胃で消化し、腸で吸収されて栄養が体に回りやすくなります。ただ消化・吸収されるだけでは、効いてほしい場所に行く前に有効成分が分解されたり、分解された場所で余計な作用をしたりすることがあります。そうならないよう、薬は作り方に工夫がされています。

例えば便秘薬は腸に効いてほしいですが、その有効成分は胃酸で分解されると効果がなくなります。そこで胃と腸のpH状態を利用します。胃は胃酸により強酸性ですが、腸はアルカリ性に傾いています。便秘薬はアルカリ性に溶けるものでコーティングすることで、腸までその有効成分が届くようになっています。しかし、この薬を牛乳で飲むと胃酸が中和され、胃のpHは通常よりアルカリ性に傾いてしまい、胃でコーティングが剥がれ有効成分が出てきてしまいます。また、錠剤が飲みにくいからと砕くことも、有効成分を外に出してしまいます。

薬を水以外で飲むこと、指示以外の方法で飲むことは、よく効く工夫を自分で取り除いてしまう可能性があるのです。面倒でも指定されている方法が、一番良く効く飲み方です。薬を飲むときの参考にしてください。

【本多里菜】